

「激戦地」に開業して



一山伸一

いちやま皮膚科
(横浜市港南区)

平成27年6月から上大岡駅前皮膚科クリニックを開業しました。

私は、横浜市立大学医学部卒業後、藤沢市民病院や横浜市立大学病院で研修後に市大皮膚科に入局しました。入局後、大学、横須賀共済病院、大学の順に勤務し、その間、自分が好きでもあり得意とする手術を多数経験させて頂きました。平成2年4月から澤泉健二郎先生の後任として横須賀共済病院に再度赴任し、27年3月まで勤務させて頂きました。

その25年の間、幸いなことに優秀な若い先生を大学医局から多数派遣して頂き、当初は2人体制でしたが、数年に1人ずつ増員することが可能（増員の際は、病院管理者と多少のトラブルもあり）になり、最終的には一般病院の皮膚科ではおそらく全国最多クラスと思われる6人体制にすることが出来ました。医局の協力を深く感謝しています。

横須賀に25年（ウンテンの期間も含めれば27年）も勤めたのに、しかも上大岡駅周辺には既に6軒もの皮膚科専門クリニックがあるのに、なぜ上大岡で開業したのか？ 答えは、東日本大震災にあります。

震災当日、私は大学のクルズスで福浦キャンパスに行っていました。その後に病院で手術があり急いで帰らなければなりませんので、大学内を走って移動していました。1回目の地震の時は大学病院の中央受付の前を必死で走っている時で、地震のゆれを感じることはなく、周囲の恐怖の声や床に伏せている人がいるのを暴漢が銃でも発砲しているのかと思いながら、真ん中を走り抜けました。そういうことで、1回目の揺れを感じずに過ぎました。

2回目の揺れですが、直後に医局に忘れ物をしたことに気付いて更に必死で走って戻った時に地震に

遭遇したので、今度も地震を感じないで過ごしてしまいました。その後、病院には車に乗って戻りましたが、福浦の土地は埋め立て地であり液状化現象による大量の水が道路に溢れているのを太い水道管の破裂と思い、道路の信号機が止まっているのを広範囲の停電と思い、病院に戻って初めて大地震と分かりました。従って、あの巨大地震を2回とも横浜に居ながら感じることはありませんでした。手術予定の患者さんは、そんな大変な時に律儀にも病院待合室で待っていましたので、余震の続く中、手術を行うことにしました。

その後、部下を帰宅させ、自分は病院の外来に泊まり込みました。翌日は帰宅したものの遠距離での被災の不自由さを実感し、自宅のある上大岡で開業することに決めた次第です（長くなって済みません）。

クリニックは、狭い階段しかない古いビルの2階での開業ですが、100歳を超える患者さんも自力で急な階段を上り下りして通院して頂いています。手術も勤務時と同様に行っており、現在20件／月前後の件数をこなしています。

上からの締め付けや達成困難な数値目標の要求もなく、自由気ままな診療を行う気持ち良さ（病院勤務時も好き勝手にやっていたが）は想像以上です。

現在も1回／週、横須賀共済病院で少数の高齢の患者さんの診察と入院患者の手術室での手術に参加させて頂いており、これまで以上に充実した日々を送っています。

開業したばかりの新参者ですが、「患者さんを第一に考えた診療」をモットーに頑張りたいと思いますので、先生方の益々のご指導をお願い致します。

開業にあたり

高須 博

西大沼皮膚科クリニック
(相模原市)

皆さんこんにちは。相模原市南区西大沼に開業した高須と申します。私は北里大学に入学し、平成2年に北里大学皮膚科に入局しました。その後、鹿島労災病院、東京都老人医療センター、防衛医科大学校、横浜医療センターなどに出向して26年間勤務し、平成28年3月に退職しました。そして5月に、大学病院と小田急線相模大野駅の間地点に西大沼皮膚科クリニックを開院しました。駅近でなく、あるのはバス停だけで、昼間でも周りを歩いている人を見かけないような場所です。現在、開業して約1年が経ちました。大学から紹介もして頂いているので、患者にも恵まれ診療を行っております。まだ、現時点では開業に対する不安しか感じていないので、開業までの道のり、こだわりを書かせて頂きます。

開業を決断したのは、平成27年の7月頃になります。大学に長年勤務したため、仕えた教授は3人です。2期生である勝岡教授が定年を迎え、科長代理を私に指名して退任されました。その時点ではどなたが教授になるか全くわからず、どなたが就任されても良いように私を科長代理に指名したのだと思っております。1年という長い期間を経て、北里大学卒業生である天羽康之先生が教授に就任しました。教授不在の1年間はとても長く、科長代理という肩書きは対外的にも院内的（事務处理的）にも辛い期間でした。この期間でかなり疲れてしまいました。そして、教授として2年目の天羽先生は名実ともに成長されたので、今後は地域医療に貢献したく開業を決意いたしました。

開業場所は、大学の近くで探していたところ、大学病院から相模大野駅行きのバスに乗り、2 km離れた所に駐車場20台付きの場所があったので決めてしまいました。

クリニック名は、本来であれば高須皮膚科としたかったところですが、TVコマーシャルで「高須〇×〇×〇」が流れているため、美容専門と思われた



筆者とスタッフ

り、ヘリコプターを持っていると勘違いされると困るので、地名を付けました。

開業するにあたり私のこだわりを書かせて頂きます。私が目指すのは普通の皮膚科医です。アトピー性皮膚炎、パッチテスト、光線療法、小手術、太田母斑や扁平母斑などの保険適応となるレーザー治療や検査が出来ることであり、開業医として出来ることは行えるように準備しました。

もう一つこだわったのが診療机、椅子です。以前から診療机の形に疑問を感じていました。事務机で診療をすると、体を90度移動しないと診察が出来ないこと。電子カルテに入力していると、患者目線では患者を診ないで画面ばかりみていると言われてしまうこと、患者が画面を覗き込んでくるという不満がありました。それらを解決したく、診療机のカタログを調べましたが納得いくものがなく、自分で机を設計（図1）するしかありませんでした。目線の移動もしくは体を45度移動するだけで診察が可能です。自画自賛ではありますが、大変快適であります。

また、椅子も色々探しました。2つの診察室を常に移動しているので、椅子から立ったり座ったりが激しく、以前腰を痛めたことがあったので、「ガラスの腰」の持ち主である私は腰に負担をかけない椅子を探す必要がありました。そこで見つけたのがオ

カムラ製作所のルーチェという椅子です（図2）。体重の負荷が無いと座面が持ち上がり、座面に座るとガスダンパーが衝撃を緩和・吸収してゆっくり座面が定位置に下がります。立つときのアシストはありませんが、腰を常に意識出来るので腰痛は起きていません。自作の机と椅子は私の診療を最大限に助けてくれています。また、開業前にクリニックの階段でお尻から滑り落ち、尾骨を骨折してしまいました。歩行はまったく問題がありませんが、座るとき

に激痛が走ります。車の運転、電車が最悪に痛く、京都の日皮会総会に行く道中は地獄の苦しみでした。しかし、診療中はルーチェが痛みを軽減してくれました。

今回は開業前のこだわりを書かせて頂きました。まだ、1年しか経過していませんが、開業して良かった思える日が来れば、開業その後を書かせて頂ければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

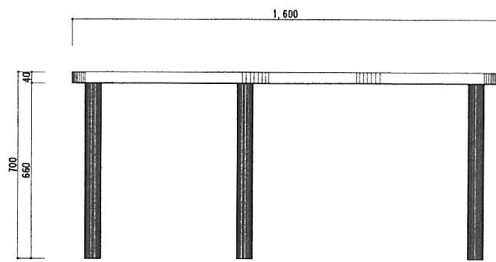
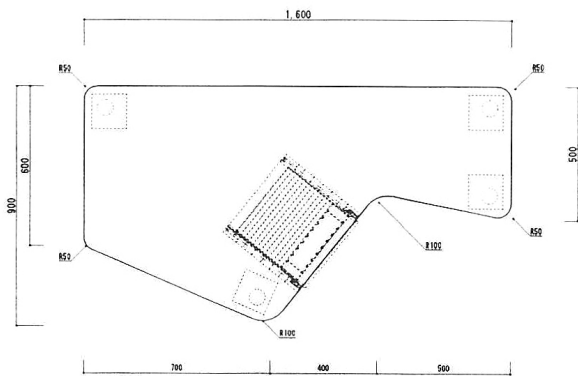


図1：設計図



図2：ルーチェ